



変化への対応

理事長 野村 和成



世界は、昨年来の経済大不況で、日本も厳しい新年度を迎えました。メディアの報道、街の声は不況の話一色です。しかし、ただ手をこまねているのではなく、このようなときこそ、次に向けて行動すべきです。

『自助自立』を標榜するもえぎの会も厳しい環境にあり、多くの課題を抱えておりますが、行政、地域、関係団体をはじめとして、多くの方々のご支援を受け、連携して、一つ一つ課題を解決し、ステップを進めてまいります。

一昨年度は、「運営の安定化」、昨年度は、「積極的な展開」をイヤーモットーとして、活動してきました。課題は残っていますが、一定の成果を上げることができました。一昨年度は、障害者自立支援法が施行され、もえぎの会のスタッフも体制が一新され、若返ったため、運営が混乱しないように内部固めをしました。昨年度は、地域の要請に応え、法人の運営基盤を安定化するために、積極的に外部との連携、新しい事業の計画をしました。

そして、今年度は、「変化への対応」です。もえぎの会は、多くの問題に取り組み、大きな変化に直面しますので、うまく乗り切って進化したいと考えております。

障害者自立支援法に基づく新体系へ移行して新年度を迎えます。社員やスタッフが、日常の運営で混乱しないことが第一で、今までの課題を改善する機会ととらえて対応します。

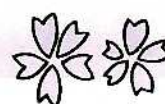
学芸大学店もおかげさまで、1月の開店以来、ご好評をいただいております。生産、販売とも、早く運営を安定化させるべく、社員、スタッフの配置や、生産工程の改善、設備の充実などに取り組んでいます。

目黒区の整備する中央町二丁目施設(6中跡地)の運営委託を決定していただき、来年4月の開設にむけて準備を進めます。公設民営のモデルケースとなり、目黒区の期待にこたえる運営をするためにきめ細かい計画を立てています。

新しいスタッフも加わり、さらに能力を向上させ、個別支援計画など支援の質と業務の効率を向上させる努力を重ねます。そのための環境の整備、業務の改善なども実施します。

外部に目を向けますと、障害者自立支援法の施行により、福祉サービスの運営主体は、国から区市町村に移管され、目黒区にも自立支援協議会が設立されました。その中で、目黒にふさわしい福祉サービスを充実させ、効率のよい、質の高い事業の充実のためにできる限りの力を発揮したいと考えております。そのために、地域の方々や多くの団体との連携をさらに密にしていく必要があります。

法律や制度が改正され、少しずつ改善されていますが、法律の趣旨に基づき、規制緩和、自由裁量により『自助自立』が生かされる土壌になっています。限りなく存在する地域のニーズに応え、利用者の更なる満足度を向上させ、法人運営の基盤強化のために、新しい事業を計画し、更に、挑戦を続ける所存であります。皆様の更なるご支援をよろしくお願い申し上げます。



2009年度事業計画

施設長 渡邊 浩成

新しい年を迎え、早くも3か月が過ぎようとしています。今冬は、夏日があったり、真冬の寒さになったりして体調維持に悩まされた人は多いのではないのでしょうか？この時期は、しいの実社も新年度に向かって力を充電していますが、2008年度は大きな変革がありました。

○ 学芸大学店のオープン

東京都の基盤整備事業を利用して、作業場所の改修と併せて、1月21日(水)にお店をオープンしました。木のぬくもりと壁のレンガが調和した、おしゃれなものとなりました。毎日たくさんのお客さんがきてくださり、徐々に、馴染みのお客様も増えてきました。学芸大学東口商店街や鷹番町会の人に温かく迎えいただいています。手作り製品を、“美味しいから、良いものだから買ってもらう”を今後とも維持していきたいと思えます。近い将来、しいの実社の利用者が“いらっやいませ、ありがとうございました”といえる体制を作っていきます。

○ 障害者自立支援法に基づく新体系への移行

3月1日より、自立支援法の日中活動の中の就労継続支援B型と生活介護事業を1つの施設で行う多機能型としました。一つの部屋でパンと製菓を製造し、狭くなっていましたが、2つの部屋に分ける改修をし、スペースも設備も改善されました。高齢者が増え、静かで落ち着いた環境を新しい作業場所を実現できました。今後、さらに改善しながら、仕事に誇りを持ち、働く姿を維持していくというしいの実社の利用者にあった事業にしていきたいと考えています。

2009年度の事業計画は、この2つの事業の安定が中心になります。就労継続支援B型は、しいの実社と学芸大学店の2階の作業場を使った運営になります。2つの事業所で連携をとり、生産力を上げて利用者の工賃向上を目指します。生活介護は、仕事、作業の提供はもちろんです。職員配置を厚くして、利用者の特性に合わせた支援していきます。ウォーキングや体操など、体力を維持し、生活の幅を広げることを課題として進めます。

その為に、スタッフの支援力の向上に努めます。厚労省の新年度の障害福祉サービス報酬の中で、良質な人材確保、福祉・介護人材の処遇改善、サービスの質の向上に加算がつくシステムになりました。手厚い体制をとり、安心して任せいただける体制を整えるしいの実社の事業計画にとって、大変心強いことです。日中の場だけではなく、生活の場も含めトータルで支援できる組織の運営、スタッフのレベルアップにつなげていきたいと考えています。



しいの実祭報告

昨年11月27日に第7回しいの実祭を開催しました。当日は天気にも恵まれ、800名を超えるお客様に会場に集っていただきました。おかげさまで例年以上に製品の販売が好調で、この日のために、一生懸命製作に取り組んできた利用者、スタッフは大変満足でした。

また、今年初めての試みとして目黒区内の施設(大橋えのき園・下目黒福祉工房・中央町福祉工房・F C目黒・東が丘福祉工房)にも出店していただきました。多くのお客様が来てくださり、売上もよかったとのことをお声を頂きました。場所が狭くて今までできなかったのですが、お隣の白川電機さんのご協力により実現できました。

バザーへの寄付を下さった皆様、バザーの運営をしてくださった後援会、家族会の皆様、今年もおいしい焼きそばとフランクを出店してくださった清水町会の皆様、そして来場してくださった皆様、ありがとうございました。



土曜日開所

しいの実社では現在第1・第3土曜日に「土曜日開所」を行っています。土曜日開所では平日のような作業ではなく、主に外出や上映会、外食などを行っています。

それ以外にも昨年は8月にしいの実社の調理スタッフに協力してもらいカレーライス作りを行ったり、12月には品川を中心に活動している人形劇サークル「でかばっぐ」をお招きし、人形劇や南京玉すだれ、腹話術などを鑑賞しました。近所の学童クラブのお子さんもお招きいただき、社内に限らず地域の人にもお声かけをし、地域にも向けた企画としています。

土曜開所は希望者のみの参加としていますが、毎回25名前後の社員が参加し、企画によっては30名だったり皆さん楽しみにしているようです。

《カレー作り》



《目黒区歴史資料館》



《でかばっぐ公演》



